

◆事例の選定について

※ A・B・Cの中からそれぞれ1つ選択し、申込用紙に番号を記入して下さい。計3類型提出していただきます。

※ 選択した類型は異なる対象者にして下さい。

※ 該当しない事例は再提出をしていただく場合があります。（管理者または指導者に確認していただきます。）

種類	番号	類型	選定の際に押さえる視点
A	①	リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例	<p>■リハビリテーションもしくは福祉用具・住宅改修を活用したケース</p> <p>※リハビリや福祉用具・住宅改修の活用にあたって、医師やリハビリ職、福祉用具専門相談員等と連携した事例が望ましい</p> <p>①医療機関や訪問・通所等で実施されるリハビリテーションの事例</p> <p>②歯科医等より提供される口腔リハビリテーションの事例 (摂食・嚥下評価なども含む)</p> <p>③福祉用具貸与や購入、住宅改修を含んだ事例 (施設内での福祉用具を利用している場合も含む)</p>
	②	認知症に関する事例	<p>■下記の①～③すべてに該当するケース</p> <p>①できれば、疾患名（レビー小体型認知症、脳血管疾患型認知症など）がわかっている。（困っている症状のみで、認知症なのか精神疾患なのかわからないケースは含まれない）</p> <p>②本人の望む暮らしがわかる。 (本人の意向がわかっている。家族が困っていることがだけがニーズにあがっているケースは含まない。)</p> <p>③担当して1年以上が経過している。 (本人ができること、できないこと、していること、していないことなど情報がしっかり把握できていて、アセスメントが十分できている。)</p>
B	③	看取り等における看護サービスの活用に関する事例	<p>①居宅・各施設等で看とりの支援ができた事例</p> <p>②居宅・各施設等で看取りの支援を行っていたが、病院への入院となった事例</p> <p>③今は未だ終末期ではないが、癌等で今後終末期に入ることが予測される事例</p> <p>④がんの末期の一人暮らし(高齢世帯等)の事例⑤医療管理(中心静脈・経鼻・胃ろう、カテーテル・在宅酸素・気管カニューレ・人工呼吸器・腹膜透析等)家族の不安が強く訪問看護等の支援で在宅支援が実施できた事例</p>
	④	入退院時等における医療との連携に関する事例	<p>■退院時、医療連携がポイントになるケース</p> <p>①医学的管理が必要な事例 吸引、胃ろう、バルカテル、在宅酸素、インシュリン注射、褥瘡など 医療処置が必要な事例など</p> <p>②入退院を繰り返して医療との連携が必要な事例</p> <p>③退院時、療養生活指導を受け継続して医学的ケアを受ける必要のある事例</p>
C	⑤	社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例	<p>■様々な社会資源を活用、連携したケース</p> <p>※担当して3カ月以上が経過しており、継続して様々な社会資源を活用し、インフォーマルサポートと連携がとれていることが説明できること</p> <p>①公的制度(生活保護、障害福祉など)を活用している事例</p> <p>②互助(民生委員の訪問、配食サービスを利用した安否確認、地域サロンや老人会など)をケアプランに位置付けている事例</p> <p>③地域や行政へ働きかけをした事例</p>
	⑥	状態に応じた多様なサービス(地域密着型サービス、施設サービス等)の活用に関する事例	<p>■状況に応じ地域密着型サービス、施設サービスなどの多様なサービスを活用しているケース</p> <p>①医療依存度が高いため、定期巡回・随時対応型訪問介護看護や看護小規模多機能型居宅介護等を利用している事例。</p> <p>②小規模多機能型居宅介護が有効に利用された事例 ・サービスが導入しづらい利用者の利用につながった事例 ・ショートステイ等を利用したことで精神的に不安定な状態にある利用者の不安が解消された事例</p> <p>③認知症のBPSDのため家族介護では支えきれず、認知症対応型共同介護を利用しようとする又は利用している事例。</p> <p>④認知症のBPSDや家族介護力の低下、疾患や重度の心身機能障害等により、施設サービスを利用しようとする又は利用している事例。</p> <p>⑤リハビリテーションの必要性から一定期間老人保健施設を利用しようとする又は利用している事例。 施設介護支援専門員の方は、自分の担当している事例でも良い。</p>
		家族への支援の視点が必要な事例	模擬事例を使用

★選定された事例につきましては、人数調整等により変更いただく場合がありますので、ご了承下さい。